



出張報告書

令和6年 2月14日

尼崎市議会議長 様

会 派 名 日本維新の会
 代表者氏名 別府 建一
 出張者氏名 安浪順一、別府建一、
 辻 信行、松岡洋司、
 寺井大地、高谷浩司

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1 出張期間 令和6年1月23日から令和6年1月25日まで

2 結果の概要

用務先 ・周南市議会 ・大村市 ・広島市議会	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 1 官民連携 徳山駅前図書館について 2 大村競艇場について 3 広島避難誘導アプリについて
添付書類 <input checked="" type="checkbox"/> 出張調査報告書 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	備 考

3 届出事項の変更等 なし あり (内容は裏面に記載)

旅 費 の 精 算

<input checked="" type="checkbox"/> 精算額は、令和5年12月26日届け出た額(437,520円)と同一額である。 <input type="checkbox"/> 届出事項の変更等により、別途精算する。(精算額は裏面に記載)

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

支 出 額	
精 算 額	
支出 差引 額 戻入	

変更前と後の日程

	月	日	日	日	日	日	日
前 発着地							
後							
前 経 路							
後							
前 用務先							
後							
前 宿泊先							
後							

出張報告書

- 【日時】 2024年1月23日（火）
【視察先】 山口県周南市
【参加者】 安浪順一、別府健一、辻信行、松岡洋司、寺井大地、高谷浩司
【報告者】 高谷浩司
【概要】 周南市中心市街地活性化の取り組みについて（徳山駅前図書館）

1 周南市の概要

- (1) 面積 656.29 Km²
- (2) 人口 約14万人
- (3) 山口県NO1の工業力
- (4) 駅を基準にした、中心軸の形成を行い南北の1本道路に公共施設を集約させている。

2 徳山駅周辺整備事業

(1) 沿革

- 平成17年2月 徳山駅周辺整備構想
- 平成30年2月 徳山駅前賑わい交流施設及び徳山駅前図書館供用開始
- 平成20年～22年 徳山駅周辺基本計画・基本設計
- 平成28年 北口駅前広場設計等（2回開催）
- 平成28年1月 賑わいと交流・居場所・おもてなしの場（シンポジウム）

(2) 南北自由道路（徳山駅の南北を結ぶもの）

- JRの意向により「通路」として都市計画決定
- 周南市96%、JR4%負担。

(3) 橋上駅舎

- 自由通路整備及び管理に関する要綱に基づき。
- 周南市96%、JR4%負担。

3 北口駅前広場の課題

- (1) 地下通路は、バリアフリーに未対応
- (2) 歩道が狭く、歩行者空間が少ない
- (3) 歩行者同線と車両同船が交錯する
- (4) 広場から既存商店街へ賑わいが広がらない

4 賑わい交流施設整備事業

(1) 沿革

- 平成24年 5月 徳山駅ビル跡地活用方針検討会議
- 10月 徳山駅周辺デザイン会議
- 平成25年 3月 パブリックコメント
- 5月 新たな駅ビル整備基本構想（素案）
- 11月 新たな徳山駅ビル整備基本構想
CCC（カルチャー・コンビニ・クラブ）民間企業

(2) アンケート

- ア 市民が行きたいと思う場所のイメージ

- 1位 落ち着いた、居心地のよい
- 2位 カフェやレストランが併設
- 3位 年中無休で早朝から夜遅くまで開いている

イ 徳山駅に欲しい施設

- 1位 カフェ
- 2位 書店

公共施設としては図書館が1位

(3) 平成28年8月 CCCを指定管理に決定

(4) 2つの図書館の役割

徳山駅前図書館・・・新スタイルの図書館「知の広場」
今を知り、広く「知」を楽しむ図書館

中央図書館・・・これからも大切な図書館
過去に学び、深く詳しく「知」を深める図書館

(5) 施設構成

ア 施設	9：30～22：00
イ 蔦屋書店・スターバックスコーヒー	8：00～22：00
ウ vec (飲食施設)	11：00～22：00

(6) 整備事業費

建築費・駐車場・解体費・その他	合計	51億5100万円
図書館関係費		3億6400万円

(7) 指定管理料 (令和5年)

ア 賑わい交流施設	6890万円
イ 徳山駅前図書館	1億600万円

5 官民の取り組み (市民イベント)

- ア 徳山あちこちマルシェ
- イ 周南蚤の市
- ウ 萌えサミット
- エ 周南地域マーケット

6 情報・感想

(1) 施設内にあるスターバックスの売上げが全国5位

理由は不明との事であるが、飲食をするとところがほぼなく目立たないため、集中するのではと感じた。

(2) 平日でも、マルシェが賑わっているとのこと。

(3) 1階は蔦屋書店、2階が図書館となっており落ち着いた空間である。

(4) 無人販売を一部行っているが、万引きはあるようだ。

(5) 徳山大学を買い取り周南公立大学を開学

施設内にサテライトオフィスを設置している。



会派視察報告書

日 程 : 2024 年 1 月 24 日 (水)

視察先 : 長崎県大村市 大村ボートレース場

参加者 : 別府建一・安浪順一・辻信行・松岡洋司・寺井大地・高谷浩司

報告者 : 松岡洋司

<調査内容>

大村ボートレース場は全国 24 場の中でも 3 年連続で売上額がトップとなり、2022 年度の売上額が、過去最高の 1807 億円で、市の一般会計への繰出し額が 110 億円となり、小中学校のエアコン設置などに使われている。こうしたことから尼崎市モーターボート競走場においても売上向上に期待が持てるのではないかということから、大村ボートレース場と尼崎市モーターボート競走場にどのような差があるのか、視察調査した。

<経営状況>

経常利益で平成 17 年度から令和 3 年度まで 17 期連続の黒字。開設以来の繰出し総額が 890 億 8 千万円。

<大村ボートレース場における収益向上のための取組等について>

場外発売場を県内 7 か所、県外 8 か所、合計 15 か所整備している。

平成 30 年 9 月からナイターレースを開催し、売上が大きく向上した。

第1レースが17時からのミッドナイトレースも無観客で開催されている。

<今後の取り組み予定>

ミッドナイトレースの日数を増やす等。

<地域との関係性等>

ナイターレースの開催にあたっては、高さ5メートルの防音壁を設置することで、騒音が基準値を下回った。

23時までのミッドナイトレースの開催にあたっては、防音壁を嵩上げし、延長工事を行った。

周辺対策の一環として、地域課題である道路工事など地域からの要望を直接受けている。

<Gruun おおむら>

地域の子どもたちの健全な育成と老若男女問わず多世代交流ができる地域交流のコミュニティの拠点として、「Gruun おおむら」を整備し、地域の子どもたち、親子たちにとっての、開かれた「あたらしい居場所」となっている。

スケートボードパーク・ボルダリングセンター・芝生広場・屋外遊具広場・アウトドアフィットネスなどが整備されている。

<視察の感想>

ナイターレースの開催により収益が向上した大村ボートレース場は郊外に位置し、尼崎市モーターボート競走場は市街地に位置し、立地条件が全く違うことから、ナイターレースを開催することが難しい尼崎市モーターボート競走場にとっては、大村ボートレース場を参考にすることは難しい。

「Gruun おおむら」はスケートボードパークやボルダリング施設など、若者が望む施設が充実しており、ギャンブル施設でありながら地域からの理解を得ようとする施設側の強い意志が感じられた。

尼崎市モーターボート競走場においては、ポーネルンドと連携して Mooovi 尼崎が 2022 年 4 月にオープンしましたが対象が小学生以下で、一定の地域貢献ではあるが、まだまだ満足いくものではない。敷地の問題はあるが、「Gruun おおむら」のような施設を整備してほしい。

尼崎市モーターボート競走場においても、周辺対策の一環として地域要望を直接受けることも考えてほしい。

会派視察報告書

【日時】2024年1月25日

【視察先】広島市

【参加者】別府健一・安浪順一・辻信行・松岡洋司・寺井大地・高谷浩司

【報告者】辻 信行

【視察内容】ひろしま避難誘導アプリ「避難所へ Go！」

ひろしま避難誘導アプリは、令和2年に危機管理室危機管理課が公式にリリースしている防災アプリです。

ひろしま避難誘導アプリ「避難所へ Go！」は、災害が発生する前に適切な避難誘導を行って頂く為の防災アプリです。避難指示等の発生時、最寄りの避難所への案内を行います。

自分のいる現在地に避難情報が発令されると、避難情報発令に併せて開設する最寄りの避難所への避難ルートを、細かい操作の必要なく、ボタン一つで検索することができます。

これにより、土地勘のない通勤・通学者や旅行者であっても、開設している避難場所がどこにあるのか視覚的に分かります。その他多言語(日本語を含む8言語)に対応した各種防災情報の取得や、地図上で現在地の危険度(ハザード情報)を確認する事などができます。

平常時は、気象情報や避難所の検索や自宅から周辺の避難所へのルート表示など、災害への備えとなる情報の確認が行えます。

・デメリット

避難誘導アプリを御利用の際は、スマートフォン等の画面を注視しながら移動することは危険。

アプリの認知があまりされていない。オフラインでは、使いにくい。電池の消耗が激しい。

アプリの機能強化に、経費(約800万)が毎年かかる。

【視察の感想】

災害は、いつ起こるかわかりませんが、アプリを利用して避難所へ行くのも大切ですが、少子高齢化が進む中で本市は一人世帯の高齢者も増えています。

やはり、自助と共助が大切だと思います。